

Schubertiade 2017 ～白鳥の歌～

Programm

演奏曲目

マイヤーホーファーの詩による歌曲
「別れ」(Abschied D475)

Stage I

『白鳥の歌』 Schwanengesang D957/965a
レルシュタープの詩による歌曲

- 第1曲「愛の使い」(Liebesbotschaft)
- 第2曲「兵士の予感」(Kriegers Ahnung)
- 第3曲「春の憧れ」(Frühlingssehnsucht)
- 第4曲「セレナーデ」(Ständchen)
- 第5曲「住処」(Aufenthalt)
- 第6曲「遠い地にて」(In der Ferne)
- 第7曲「別れ」(Abschied)

Stage II

レルシュタープの詩による歌曲
「流れの上で」(Auf dem Strom D943) ※チェロ

Stage III

- 『白鳥の歌』 Schwanengesang D957/965a
ハイネの詩による歌曲
- 第8曲「アトラス」(Der Atlas)
 - 第9曲「君の肖像/彼女の肖像」(Ihr Bild)
 - 第10曲「漁師の娘」(Das Fischermädchen)
 - 第11曲「街」(Die Stadt)
 - 第12曲「海辺にて」(Am Meer)
 - 第13曲「影法師」(Der Doppelgänger)
- ザイドルの詩による歌曲
第14曲「鳩の便り」(Die Taubenpost D965A)

シューベルティアーデコンサート 『白鳥の歌』

アントロポゾフィー医療にたずさわる医師と療法士によるシューベルトのコンサート＝シューベルティアーデ。13年目になる今年は『白鳥の歌』を取り上げました。

～白鳥は、死ぬ直前に極めて美しい歌を歌う～
最後の連作歌曲である全曲をお聴き下さい。
「流れの上で」ではチェロとの共演も行います。
皆さまどうぞお越し下さい。



バリトン：揚妻 広隆

内科医、バリトン歌手

医学部在学中から声楽を広江吉信氏に師事。「国際アントロポゾフィー医学ゼミナール」で浅田氏と出会って以来、シューベルトにハマっている。現在「あげつまクリニック」で内科・循環器科医としての仕事の傍ら演奏活動が続けることで、自身が癒されている。統合医学のアントロポゾフィー医学が自らの医療の中心になるべきものと考え研鑽、2014年アントロポゾフィー医国際免許取得。自由診療としてアントロポゾフィー薬剤等による治療・オイリュトミー療法・看護による外用療法等を実践している。一般社団法人アントロポゾフィー医学の医師会、理事。



ピアノ：浅田 豊

オイリュトミー療法士、ピアニスト。

20代で渡独して人智学の治療教育を学ぶ。その後ゲーテアナムで図書館・書店に勤め、オイリュトミー学校でピアノ伴奏する傍らオイリュトミーを学ぶ。チューリッヒ近郊の大人の障害者ホームでオイリュトミーとオイリュトミー療法を20年間実践。ドルナッハでの「神秘劇」に2009年から出演。現在、シュタイナーの社会論を勉強中。(オイリュトミー療法とは、ヨーロッパを中心に実践されている運動芸術療法のひとつで、あげつまクリニックでは山本啓子さんによって実践しています)



チェロ：福本 真琴

愛知県長久手市出身。名古屋市立菊里高校音楽科を経て東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。同大学大学院修士課程修了。学内にて同声会賞、大学院アカンサス音楽賞を受賞。第17回ブルクハルト国際音楽コンクール弦楽器部門第1位。2010年Lyra Quartett(リラ・カルテット)を結成。ザルツブルク＝モーツァルト国際室内楽コンクール2013第3位。東京藝大室内楽定期演奏会、ヴィオラスペース2013「ヒンデミット弦楽四重奏全曲演奏会」、JT主催「期待の音大生によるアフタヌーンコンサート」、GINZA YAMAHA室内楽サロンコンサートシリーズ等に出演。これまでにチェロを林良一、河野文昭、中木健二の各氏に、室内楽を松原勝也、佐々木亮、山崎伸子の各氏に師事。現在、東京芸大弦楽科研究助手を務めながら演奏活動を行う。

【申込先】

・10月28日 八ヶ岳

0551-36-5535 (矢崎)

0551-38-1329 (涌井)

※会場問い合わせはペンションフェルマータ TEL 0551-38-3007

・11月3日 豊田 あげつまクリニック

TEL: 0565-25-1203

FAX: 0565-25-2588

・11月11日 横浜 すみが丘ひだまりクリニック

TEL: 045-594-2417